

エネルギー

大谷中学校 14歳の挑戦

この記事は14歳の挑戦の一環として大谷中学校の生徒が取材をして、記事を書きました。



林業とその役割

十四歳の挑戦四回目。
私たちは林業のお話を伺いに島田優平さんに取材に行きました。そこで、間伐の見学をさせていただきました。

目の前で木が切断されてとても迫力がありました。びっくりしました。何メートルもある木が倒れていてとてもスケールの大きい仕事だと思いました。

島田さんがこの仕事を始めたきっかけを教えてくださいました。



島田さんや他の従業員の方向に「働くとは?」「仕事とは?」と質問しました。「働く」ということは生きるということです。仕事は自分がスキなことです。」

林業のことは社会の時間にちよつとだけ習っていたけど、具体的によつたようなことをしているのか分かっていませんでした。今回、実際の様子を見ながらたくさんお話を聞いて、今まで林業は大変なイメージしかなかったけど林業に携わっている方によつて、山がきれいに整備されていることが分かりました。島田さんをはじめ、従業員の皆さんどうもありがとうございました。

その後、なやカフエに行き、山瀬家の熱供給システムについてお話を伺いました。

なやカフエとは、農家で実際に使われていた納屋をリフォームして生まれた喫茶店です。山瀬さんは、南砺市議員だそうでもともとオーラがありまして。ちなみに赤色のオーラでした。

山瀬さんの家では薪を使った丸太ボイラーでお湯を作っています。理由は、間伐材の有効利用ができたし、灯油コストの削減ができ、床暖導入によつて快適さもUPするからだそうです。

山瀬さんにも島田さんと同じ質問をしました。「私にとつて働く」ということ、仕事をすること、汗をかくことです。」

自分の家でお湯や電気を作るのはエコでいいと思いましたが、実際に自分の家にもボイラーや床暖を入れてみたいと思います。

次に、森林組合の方にオガ粉や薪を作つて販売している工場の見学をさせてもらいながらお話を伺いました。森林組合さんは、森林の保全や林業に関わる事業を行う団体です。

薪を作っている作業を見させていただきたり、キノコを栽培するときにはオガ粉を使うなど、たくさんのお話を熱く語っていただきましたが、その中で一番印象に残っているのは、「勉強しろ!!!」と言われたことです。なので、これからコツコツ勉強しようと思いました。現在、家を建てる時は輸入材が多く使われているという話を聞いて、それらに頼りすぎてはいけないと思いました。私たちが家を建てる時には国産の木を使いたいと思います。

■島田 優平
1977年7月30日生。

民間企業等を得て、家業の林業を継ぎ現在にいたる。多くの森林は、これから利活用時期にさしかかると同時に、日本の重要な資源として持続可能性を追求していかねければなりません。流通の川上から川下までをつなぎ、いかに木材の利用を促進できるか、地域で活用できるシステムをつくつていかなければいけません。そして、森林業がなりわいとして、これからも夢のある職業とすべく活動を行っている。